

いた解析とDNAレベルでの解析を行った。その結果、日本の分離株はすべて*R. japonica*に属し、国外の分離株とは異なっていることが判った。

1996/1997年千葉県で分離したインフルエンザウイルスの抗原性 小川知子, 山中隆也, 篠崎邦子, 時枝正吉, 水口康雄: 第36回千葉県公衆衛生学会, 1998. 2. 24. 千葉市

1996/1997 (96/97と略) シーズンに千葉で分離したインフルエンザウイルスは, A/H 3 型では, ワクチン株と前年の分離株から異なっていた。B型では, 大多数はワクチン株, 94/95シーズンの分離株と同じ抗原性を示したが, 1株全く異なった株が分離された。

24時間風呂水のレジオネラ汚染状況 岸田一則, 小岩井健司, 久門勝利, 鶴岡佳久, 水口康雄: 第十回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会, 1998. 2. 19. 栃木県

24時間風呂水37検体中30検体 (81%) からレジオネラ属菌が検出された。10⁵CFU/100ml以上の風呂水が5検体 (14%) 認められた。分離された菌はすべて*L. pneumophila*であった。

分離培地別にレジオネラ属菌の分離成績を比較したところほぼ同等の成績であった。しかし, MWY寒天培地のみ菌が分離された例が1件 (3%), WYO α 寒天培地のみ菌が分離された例が1件 (3%), MWY寒天培地がWYO α 寒天培地の100倍以上の菌数を示した例が2件 (5%) 認められた。24時間風呂水が検体の場合, MWY寒天培地の分離菌数, 雑菌抑制能が若干良好であった。BCYE α -B. B. はMWYとほぼ同様の成績であった。

分離された菌株をRAPD分析したところ, 由来の違う菌株は, 様々なパターンを示したが, 同一浴槽由来の同一血清型の菌株は, すべて同じパターンを示し, 同一浴槽から分離された菌株は均一な集団であることが判明した。

水質検査精度管理でわかった省令法のいくつかの問題点

日野隆信: 地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第10回理化学研究部会, 1998. 2. 13 横浜市

水道法が昭和32年に施行されて以来, 水質基準に関する省令は昭和33年, 昭和42年, 昭和53年及び平成5年に改正が行われている。水質基準の改正に伴って検査方法も改正されているが, 昭和53年厚生省令までは水質一項目一検査方法であった。現省令では複数の検査方法の中から任意に選択することが可能になっている。しかし, 測定原理の異なる検査方法では, 同一試料を測定しても分析値に有意な差が生じることが予測される。平成7年度から行っている千葉県水質検査精度管理結果を整理し, 複数検査法の問題点のいくつかを示した。

杜仲葉の生理活性成分に関する調査 矢崎廣久, 福島悦子, 加瀬信明: 地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第10回理化学研究部会, 1998. 2. 13 横浜市

生理活性成分として杜仲の樹皮に含まれるイリドイド配糖体, ゲニポサイド, ゲニポサイド酸 (GA) 及びアスペルロサイド (AP), 並びにリグナン配糖体のピノレジノール, シリンガレジノール, メチオレジノールの各ジグルコサイドなどについて, 杜

仲葉ではどのようになっているかを検索してきたが, 葉部抽出物に存在したのはGAとAPであった。そこで, この成分に着目し, 3年間の月別変動を取り纏めた結果, 5~7月にかけて含量は高く, 8月から減少する傾向が明確になったが, 含量の低い年には年間を通じて低値を示すので, 多分に天候の影響も考えられた。また, 日照時間, 土質, 肥料などが異なる3ヶ所の場所に植えられた樹木の葉中成分含量の差は特に見られなかった。

ヘッドスペースガス大量導入法による揮発性有機化合物の高感度分析法の開発 日野隆信: 第222回日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究会, 1998. 2. 27, 東京都

ヘッドスペース (HS) 法の手法の一つとして, 液相を攪拌しながら気相を長時間バージするダイナミックHS法がある。従来のこの手法は気相を長時間バージするため破過容量の小さい化合物の測定が困難であり, 揮発性有機化合物の高感度多成分一斉分析の測定には用いられていない。そこで, 気液分配平衡に達した気相の多くを短時間でガスクロマトグラフへ導入することができれば, どのような性状の試料でも高感度分析が可能になるのではないかと考え, HSガス大量導入法の開発に取り組んだ。その結果, 本法は水道水の検査を行うのに十分な感度精度を有しているばかりでなく, これまでは静的HS法でしか測定が困難であった懸濁物を含む水, 廃水, 医薬品及び土壤溶質試験等にも適応できることを示した。この発表は1997年度日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究賞の受賞講演としておこなった。

3. 著書 (抄録)

水道の水質調査法 [水源から給水栓まで] 水道水質問題研究会編著, 分担執筆, 日野隆信, 中西成子, 2. 3 地下水の水質調査, pp61-90, 技報堂出版, 1997

水道の水質試験や水質管理に携わる試験研究機関, 水道事業者, 民間会社の技術者が集まり, [水源から給水栓まで] の水道の水質調査に関する必要事項を長年の経験に基づいてまとめた本である。著者らは, 地下水の水質調査の部分を担当し, 地下水の基本的性質及び調査方法について述べた。地下水の調査方法の内容は (1) 平常時の水質調査と (2) 異常時の水質試験に分かれ, いずれも著者が当所で経験した事例に基づいている。